

2025年度 第2回町田市男女平等参画協議会 議事要旨

日時： 2025年10月6日（月） 午後2時～午後4時

場所： 町田市庁舎10階 会議室10-3

出欠： 五十音順・敬称略

石阪 督規、笈田 育子、岡本 直子、近藤 わかな、鈴木 悟、竹内 純、増田 知美、山口 卓、吉里 修

議事：

1 男女平等参画協議会 会長 あいさつ

2 (1) 市民意識調査の速報結果報告

－事務局から資料1を説明－

【会 長】全体的に前回の調査から下がっている項目が多く、特に地域活動の参加率、男女ともに働きやすい職場づくりは低い傾向にあり、町田市の課題である。またセクシャルハラスメントの被害件数が増加している点から、今後は企業に対してアプローチが必要である。

【委 員】7割の市民が調査に回答していないが、これを市民の声として反映させて良いか。回答していない人は関心がないと考えられるため、この層の意見を取り入れた場合はさらに数値は下がると予想される。

【事務局】今後は関心がない市民への啓発が必要だと考えている。

【会 長】女性に比べて男性の方が10%回答率が低いことも課題である。

【委 員】前々回は何年前に調査したか教えてほしい。前々回から徐々に回答率は下がっているか。

【事務局】前回は2021年度、前々回は2016年度に調査を行っている。2016年度から2021年度にかけて回答率が上がり、2021年度から2025年度にかけて下がっているため、徐々に下がっているとは言えない。

【委 員】回答方法（WEB・郵送）の割合が知りたい。

【委 員】WEB回答は3割程度であり、郵送回答が多い。

(2) (仮) 第6次町田市男女平等推進計画の策定に向けた方向性について

－事務局から資料2を説明－

【委 員】「子育ての負担」という言葉を使用しているが、子育ては負担するものではないため、誤解が生じないように、別の言葉に置き換えた方がよい。

また養育力を上げるために、行政や保育園ではなく、家庭を支点到に置いた子育てが必要だと考えるため、職場だけでなく家庭の男女共同参画についても記載してはどうか。

【委 員】ワークライフバランスと事業者の負担の軽減をどう両立させられるか考える必要がある。職住近接やテレワークの啓発を行い、生活のゆとりに繋げることが大切。また男女平等における働き方について、学校で教育した方がよい。

【委 員】現実的に、従業員が少ない中小企業は両立が難しいと考える。

- 【委員】女性の就職支援に力を入れているが、働くことを望まない人や、家事・子育てを楽しんでいると感じている人もいる。幸福度の観点からアプローチの方向性を検討しても良いのではないかと。多様な生き方があることを配慮した表現が必要である。
- 【会長】多様性の尊重を全面に出すことで、男女格差の是正についての意味合いが弱まるのではないかと。
- 【委員】子育てが上手くいかないことやDVが起きる原因は、夫婦関係が上手くいっていないこともあるため、夫婦関係を上手に築くための啓蒙が必要である。
- 【会長】女性を対象にした施策が多いため、男性を対象にした施策も必要では。
- 【委員】困難を抱える人やひとり親家庭への支援を充実させ、市民の生活基盤を安定させることが大切である。
- 【会長】地域社会や審議会における女性比率が低いことは町田市の課題である。
- 【事務局】市民委員の中で女性を採用する、改選の時期に各部署に対して啓発する等、今後も力を入れていきたい。
- 【会長】男女平等の核となる「固定的な性別役割分担意識の解消」が1つの基本目標にまとまっているため、この部分の比重が大きいことは検討の余地がある。
- 【会長】ジェンダー平等という言葉が計画内で用いるべきか議論したい。
- 【委員】男女の性差をなくすという意味に捉えられる可能性があり、男女格差の是正というイメージに繋がりがづらいため、あえてこの言葉を使う必要はないと考える。

(3) 第5次町田市男女平等推進計画について

- ・各取り組みの進捗状況確認

～お互いを尊重し合う意識の醸成～

- 【会長】広報・啓発を進めるにあたり、事例や意見をうかがいたい。
- 【委員】保育園では性教育について早い年齢から学べるよう力を入れている。
- 【会長】町田市では、どのようなSNSを使用しているか。
- 【事務局】X、Instagram、Facebook、LINE 配信等がある。
- 【委員】商工会議所では企業向けの研修等、市と共催で行う事業もある。そういった取り組みを増やすことで、企業への周知が可能になると考える。

～女性活躍推進に向けた取り組みへの支援～

- 【会長】男女の賃金格差が課題である。
- 【委員】女性の方が勤続年数が短い場合が多い。また管理職に就く女性が少ないため、賃金格差に繋がると考える。市が企業に社会保険労務士を派遣し、相談や助言を行う機会を提供してはどうか。

～仕事と家庭生活の調和に向けた育児・介護の支援～

- 【委員】町田市はマイ保育園登録（登録している市民にイベント等の情報提供を行うサービス）等、子育てに関するサービスは先進的だと感じる。今後は情報発信の際に多言語化に力を入れ、外国人も取り残さない工夫が必要である。

～あらゆる分野における男女平等参画の推進～

【会 長】特に町内会・自治会での男女平等参画に力を入れる必要がある。

【委 員】街の課題に対し、行政と住民が一緒に考えていくような機会の提供が必要ではないか。

【会 長】働く世代の男性が地域活動に参加できないことが課題である。地域活動に参加する一歩を踏み出せるような講座があると良い。

【委 員】地域の繋がりを活性化させるために、趣味を通して集まるコミュニティが必要である。その促進のために、市がマッチング機能を作成するなど、機会の提供に力を入れるべきである。

【事務局】今後は市民協働推進課の町内会・自治会担当と連携して、取り組みを進めていきたい。

(4) 町田市仕事と家庭の両立推進企業賞について

－事務局から資料4を説明－

【委 員】申込者が回答しやすいようにリニューアルしたが、申し込みが少ない。どのような取り組みが表彰対象になるか、具体的に説明がないため、敷居が高いと感じられる可能性がある。企業賞で表彰されるメリットをより多くチラシに記載する等、PRに工夫が必要である。

以上